

記念するということ

主任司祭 吉池 好高

いしずえの誌面でお知らせいたしておりますように、来る11月18日土曜日、12時より晴佐久神父様をお迎えして、高円寺教会で洗礼をお受けになって十周年をお迎えになられた皆さんの記念感謝ミサをおささげいたします。ミサの後、教会としてのお祝い会も計画しております。十周年を迎えられた方だけではなく、代親の皆さまやお友だち皆さま、大勢の方のご参加をお待ちいたしております。

教会は記念の場所です。ミサ、特に、わたしたちが集う主日のミサは、「わたしの記念として、これを行いなさい」と言われた主のことばに促されておささげする、主イエス・キリストの十字架の死と復活による新しい過ぎ越しの記念の祭りです。

この祭りに参加することによって、世の終わりまで主の死と復活を告げ知らせることがカトリック信者としてのわたしたちの使命です。わたしたちの主イエス・キリストの死と復活によってもたらされた新しいいのち、新しい永遠のいのちを与えられ、そのいのちによって兄弟姉妹の絆に結ばれたわたしたちは、感謝のうちに、その記念の祭りをささげるのです。わたしたちのカトリック信者としてのいのちはこれにかかっているのです。

記念を行うことによって、時の流れの中に過ぎてゆくわたしたちの人生は、失われた時を回復します。記念しているあの時、あの出来事の時に戻って、常に新たに出発することができます。記念によって、わたしたちはいわば復活を体験するのです。記念するあのときのわたしたちは、今の現実を生きている自分たちであることに気づき、そのことによって、過ぎてしまったと思っていたことは、決して失われてしまったのではなく、今の自分たちの中に生きていること思い起こすことができるのです。これが記念するということです。

記念するということは単に過去のことを懐かしく思い出すといことにとどまるものではなく、わたしたちに自分たちが確かに生きた、わたしたちの人生を取り戻させてくれるのです。ミサは、わたしたちが受けた洗礼を思い起こさせ、今生きるこのときを感謝のうちに受け入れさせてくれるのです。